寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の"いま"を伝える情報誌

vol.18

巻頭インタビュー

久能山東照宮 宮司
落合 偉洲

特集 1

VR（バーチャルリアリティ）を活用した寺社の新たな広報活動

特集 2

全国各地の宿泊できる寺院をパソコンやスマホで検索＆宿泊予約できる新サービス「テラハク」

マンション

商業施設

賃貸住宅
「シャーメゾン」

積水ハウスの土地活用

オフィス

高齢者向け
住宅

クリニック

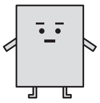
土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャーメゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076　大阪市北区大淀中1-1-93　梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん
Ⓒ積水ハウス2005

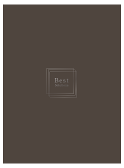
土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。

0120 FreeDial 0120-131-470

大阪特建支店　検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。

積水ハウスの賃貸住宅
「シャーメゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

寺社Now Vol.18

02
巻頭インタビュー
文化財を通じて家康公のご神徳を広めていきたい
久能山東照宮 宮司
落合 偉洲

06
特集1
VR(バーチャルリアリティ)を活用した寺社の新たな広報活動
08 天台宗総本山 比叡山延暦寺
スマホで手軽に見られるVR動画
10 日光東照宮・凸版印刷
施設の大型スクリーンで上映するVR作品
12 曹洞宗赤城山 西福寺
サイトで手軽に公開できる静止画VR

14
特集2
事前登録の受付もスタート
全国各地の宿泊できる寺院をパソコンやスマホで検索&宿泊予約できる新サービス「テラハク」

From the Past to the Future
24 日本麻振興会
『全国の神社に感謝の心で国産大麻(精麻)の注連縄や鈴の緒を奉納』
25 株式会社便利堂 写真部　岩村 孝
『国宝を写し遺す、100年先まで繋がる仕事』

うちのお宝
26 大乗寺(兵庫県)　円山応挙の襖絵
27 金刀比羅神社(新潟県)　難船彫刻絵馬

[特別寄稿] 野田博明「風まかせ」18
28 百人一首は暗号の万華鏡

30 全日本社寺観光連盟主宰
「社寺観光研究会」発足

temple stay
お寺に泊まろう。
テラハク

巻頭インタビュー

文化財を通じて家康公の業績を伝え「平和の神」としてのご神徳を広めていきたい

久能山東照宮 宮司

落合 偉洲

久能山東照宮は徳川家康公埋葬の地であり、全国東照宮の創祀としての由緒を誇っている。2010（平成 22）年、権現造の社殿が国宝に指定されたのを機に、参拝者が急増。一方では、クラウドファンディングの手法を活用した文化財修復プロジェクトを展開し、全国的な注目を集めている。次々に新機軸を打ち出し、神社界に新風を吹き込んでいる落合偉洲（おちあいひでくに）宮司に、寺社観光の可能性についてお話を伺った。

インタビュー・構成：吉田 燿子

落合偉洲宮司の筆による「東照宮遺訓」

プロフィール

落合 偉洲（おちあい ひでくに）

久能山東照宮宮司、久能山東照宮博物館館長、全日本社寺観光連盟理事。
1947（昭和22）年、宮崎県生まれ。カソリック系の日向学院から國學院大學、國學院大學大学院を経て神社本庁で総務部長、渉外部長などを歴任。2002（平成14）年3月から現職。2013（平成25）年7月には、博物館所蔵「家康公の洋時計」の歴史的な背景から大英博物館の調査までを『家康公の時計 四百年を越えた奇跡』（平凡社）としてまとめて上梓。全国国宝重要文化財所有者連盟理事長も務めている。

――久能山東照宮は、全国東照宮の創祀として比類のない由緒を誇っています。その歴史と魅力についてお聞かせください。

落合宮司　徳川家康公は1616（元和2）年4月17日、駿府城で亡くなりました。その2週間ほど前、家臣を集めてこんな遺言を残しています。自分の死後、「遺体は駿河国の久能山に西向きに埋葬し、江戸の増上寺で葬儀を行い、三河国の大樹寺に位牌を納めてほしい。そして、1周忌を過ぎたら、下野の日光山に小堂を建てて神として祀ってほしい。そうすれば、自分は関八州の鎮守となろう」

その遺言を聞いた2代将軍秀忠公は、当時、久能城があった久能山に家康公の墓を作り、久能城を撤去して神社を作るよう命じます。こうして、日光より先に久能山に東照宮が作られ、翌年、家康公の神霊を久能山から日光に分霊する形で、日光東照宮が創建されたのです。

家康公のご尊体が埋葬されたかけがえのない聖地

――日光東照宮の創建にともない、家康公のご遺骸も久能山から日光に改葬された、という説もあるようですね。

落合宮司　過去の記録の中には、久能山から日光へ「神柩」を移した、あるいは「ご遺骸を1年後に日光に移した」と書かれたものもあります。ただ、どう考えても、それには無理があるように思います。家康公は遺言の中で、「自分の遺骸を西向きに埋葬してほしい」と語っています。もし西方にいる豊臣の残党が謀反を起こしたら、平和は失われ、再び世は乱れてしまう。それを防ぐためにも、自分はこの久能山から西方に睨みを利かせよう。そして、1年経って何も起こらなければ、私の魂を日光に神として祀ってほしい…と。その遺志に背いて日光に改葬するというのは、ちょっと考えにくいのではないか。今、久能山にある家康公の墓は、1640（寛永17）年、幕府によって作られたものです。当初、家康公の墓は木造だったのですが、幕府はその木造墓を撤去して、高さ5・5mもある立派な石造の墓を新たに建立しました。もし1617（元和3）年にご遺骸が日光に移されたのなら、わざわざ莫大な資金を投入して墓を作り直す必要などなかったはずです。

――つまり、久能山から日光に移されたのは、ご遺骸ではなく神霊だった。「神柩を移した」という表現が混乱を招いた、ということですね。

落合宮司　天海僧正は徳川政権にブレーンとして入り込み、自分と関わりの深い日光の輪王寺を盛り立てるべく、輪王寺の境内に家康公を神として祀る計画を立て、家康公を説得します。そして、家康公の死の1年後、その神霊を久能山から日光へとお移しした。その後、「天海が家康公の墓を掘り返して、ご遺骸を日光に移した」という

“刀剣女子”と呼ばれる若い女性を中心に支持を集め、7時間で500万円もの募金が集まった「刀剣修復プロジェクト」のポスターパネル

話が、尾ひれを付けて広がっていきます。おそらく天海さんは、できることなら墓自体を日光に移したかったのでしょう。とはいえ家康公の遺言がありますから、おいそれと移すわけにはいかない。そこで、いろいろ考えた末に、「神柩」という表現を使ったのではないか。この時、「久能より日光へご尊体遷座のときに、慈眼大師天海僧正が遺した歌」として、こんな歌が遺っています。

「あればある　なければなしと　するがなる　くのなき神の宮遷しかな」

下の句では駿河と久能とをかけて、「するが（駿河）なる　くの（久能）なき神の宮遷しかな」と詠み、上の句は、「家康公のご遺体が久能山にあるといえばある、（日光に移ったので）ないといえばない」と詠んでいるようにもとれる。私は、この歌の意味をずっと考え続けてきたのですが、ある時、平仮名で書かれた「く」の意味に思い至ったのです。この句の前に、「ご尊体遷座」という言葉がありますよね。ご尊体とは家康公の体のことですから、「く」を「軀」と考えると意味が通じるわけです。「軀」とは仏像や神像を数えるときの助数詞で、これを平仮名で「く」と書いたところに、天海の非常な苦心があった。つまり、「軀のなき神」とは「ご尊体のない神」のことであって、ご尊体＝「軀」が久能山にあるからこそ、「軀のなき神の宮遷しかな」と天海は詠んだのではないか。

「家康公のご遺体が、神柩の中にあると言えばあるし、ないと言えばない。ご尊体なき宮遷しかな」

それが、この歌の意味するところだと私は考えています。

――久能山東照宮は、家康公のご尊体が埋葬されたかけがえのない聖地だということですね。加えて、国宝に指定された社殿建築の美しさも、久能山東照宮の大きな魅力の一つです。

落合宮司　1888（明治21）年に、日光東照宮と久能山東照宮と輪王寺が一括して古社寺保存法の「特別保護建造物」（国宝）に指定されたのですが、1950（昭和25）年の文化財保護法施行で旧国宝がいったん全て「重要文化財」となり、あらためて国宝・重文の指定が行われることになりました。以来、久能山はずっと重文で来たわけですけれども、2002（平成14）年～2009（平成21）年の社殿改修工事で漆をはがしてみたところ、創建当時の部材がほぼそのまま残っていることがわかったのです。それに、当社の社殿を造営したのは大工の中井大和守正清ですが、正清が手がけた建築物の大半は、国宝や世界遺産になっている。その正清が最晩年に心血を注いで造ったのが久能山東照宮ですから、その辺の事情も考慮されたのでしょう。

名工・中井正清の作であることに加えて、修理中に原材料がほぼそのまま残っていることがわかったため、文化庁も当社に対する評価を変えざるをえなかったのではないか。しかも、当社は最古の東照宮建築であり、家康公を祀る「権現造」の原点でもあります。これらのさまざまな理由から当社の存在が認められたことが、国宝指定につながったのではないかと考えています。

国宝指定を受けたのは、2010（平成22）年12月24日。国宝になることが決まったというニュースが報じられると、その翌日から参拝者が急増しました。翌2011（平成23）年は震災の年でしたが、参拝者は前年に比べて10万人も増え、38万人の参拝者が久能山を訪れています。

7時間で500万円の募金を集めた「刀剣修復プロジェクト」

――久能山東照宮では文化財の修復資金を調達するため、クラウドファンディングの手法を積極的に活用しておられます。その第1弾として、重文・徳川家康公の甲冑「白檀塗具足（びゃくだんぬりぐそく）」を修復されたそうですね。

落合宮司　当社の博物館には2200点の宝物がありますが、鎧63両のうち20両は、鎧の糸が切れて部品だけが遺っているような状態です。そこで、「徳川家歴代15代将軍　夢のそろい踏みプロジェクト」を立ち上げ、その第1弾として家康公の鎧修復費用の支援を募ったところ、1年間で600万円以上の支援金が集まりました。その第2弾を立ち上げようとしていた矢先に、たまたま、蔵の中から錆びた刀が8本出てきたのです。詳しい由緒はわかりませんが、家康公に奉納されたこと自体に意味があるわけですから、この刀を文化財とし

「家康公の洋時計」。スペインの船サン・フランシスコ号救助の返礼としてスペイン国王から家康公へ贈られた、名工ハンス・デ・エバロが1581（天正9）年に製作した時計

て後世に伝えていきたい。そこで、PARCOの協賛を得て「刀剣修復プロジェクト」を立ち上げました。『刀剣乱舞－ONLINE－』というゲームの制作会社ニトロプラスからも「ぜひ協力したい」とのお話があり、家康公の剣「ソハヤノツルキ」を擬人化したゲームのキャラクターを作っていただきました。昨年12月5日に記者会見を開いて協力を呼びかけたところ、その映像が拡散され、その場でどんどんお金が入ってきました。このプロジェクトは、“刀剣女子”と呼ばれる若い女性を中心に支持を集め、なんと7時間で500万円もの募金が集まったのです。

当社の文化財修復プロジェクトを支えて下さっているのは、ほとんどが個人の方ですね。募金の返礼品として、オリジナルTシャツやクリアファイル、記念酒などを贈呈させていただいております。いわば「ふるさと納税」のようなものですね。やはり、博物館の拝観料だけでは、十分な修復費用を賄うことは難しい。当社では76種類191点が徳川家康関係資料として一括重文指定を受けていますが、こうした文化財を通じて家康公の生前の業績をPRし、ご神徳を広めていくことはとても重要です。文化財としての価値を保持するためにも、さまざまな手法を活用しながら、修復資金を集めていきたいと考えています。

家康公の業績を今に伝える スペイン国王からの贈り物

――観光立国を目指す日本において、久能山東照宮はどのような役割を果たしていきたいとお考えですか。

落合宮司　当社としては、生前の家康公が、泰平の世を作るためいかに努力されたかということを、世界の人々に知っていただきたい。その象徴ともいえるのが、スペイン国王から家康公に贈られた時計です。

1609（慶長14）年、スペインの船サン・フランシスコ号が、暴風雨のため千葉県の御宿（おんじゅく）に漂着しました。乗組員373名のうち317名を村民が救助し、家康公は三浦按針に命じて西洋式帆船を造らせ、乗組員をメキシコまで送り届けさせたのです。その返礼としてスペイン国王から贈られたのが、名工ハンス・デ・エバロが1581（天正9）年に製作したこの時計です。財宝を積んだ船が難破すれば、乗組員が皆殺しにされてもおかしくない時代に、外国人の遭難者を助けて本国に送り届けた。この時計は、いわば家康公の平和外交の賜物であり、歴史的に見ても大変価値の高いものです。

2012（平成24）年、大英博物館の専門家デービッド・トンプソンさんにこの時計を調査してもらったのですが、「この時計には16世紀からのオリジナル部品が99％残っている。世界でも類例がない」とのことでした。大変貴重なものであり、昨年来日されたスペイン国王フェリペ6世も、この時計をご覧になるために、わざわざ静岡まで足を運んでくださったのです。

久能山に来られたら、ぜひ博物館にも立ち寄っていただきたい。収蔵品を通じて家康公の業績を偲び、平和の神としての家康公のご神徳に触れていただければと思います。

――落合宮司は、全日本社寺観光連盟の理事としても活躍されています。社寺観光の可能性についてお考えをお聞かせください。

落合宮司　観光の「光」とは神仏から注がれる「光」であり、この光を求めて人々は神社やお寺に足を運ぶのでしょう。そして、観光の「観」とは、人々が神仏と対峙しながら、心の目で光を「観る」ということ。つまり、「観光」とは「心の目で神仏の光を観る」ことだと私は考えています。

心の目を研ぎ澄まして神仏からのメッセージをしっかり受け止め、自分の生き方の栄養にしていただきたい。そのためにも、ぜひ神社仏閣に足を運んでいただきたいと思います。

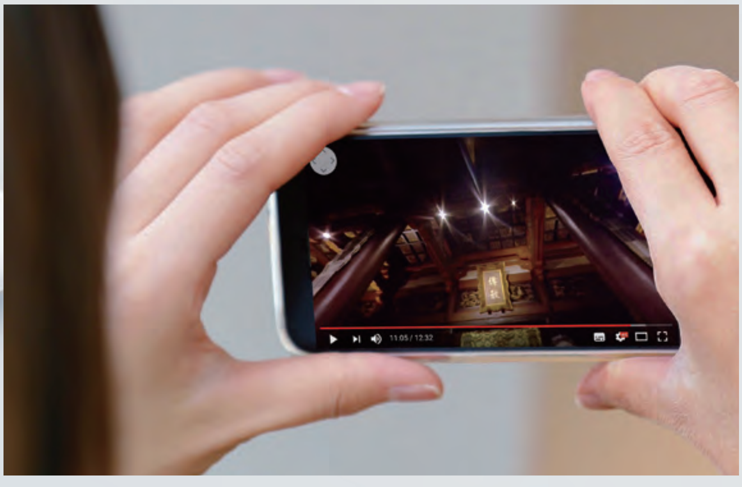
久能山東照宮
〒422-8011
静岡県静岡市駿河区根古屋390
TEL：054-237-2438
https://www.toshogu.or.jp/

VR

バーチャルリアリティ

を活用した寺社の新たな魅力発見と広報活動

今、VR(バーチャルリアリティ)を使った映像を公開する寺社が増えてきている。VR動画を活用し新たな魅力を発信している比叡山延暦寺、文化財保存目的のデジタル映像を活用し制作した日光東照宮と凸版印刷共同VR作品、360度パノラマVR静止画像で堂内の彫刻をサイトに公開した西福寺を紹介し、従来は高価なものとして捉えられていたVRが、静止画や動画など目的に応じて意外と手軽に導入できたり、文化財の保存と公開を両立させる新しい広報手段として有効活用できることをお伝えする。



スマホを傾けると上下左右360度の風景を見ることができる

VRとは何か

VRとはバーチャルリアリティ、つまり仮想空間のことで、通常の映像とは違って360度の風景を見ることができる。

パソコンやスマートフォン（スマホ）でも手軽に観覧できるが、スマホに安価な専用ゴーグルを装着したり、VRゴーグルという機器を使えば、360度仮想空間を〝立体視〟することもできるようになり、〝まるで自分がそこに居るかのような〟気分が味わえることから、さまざまなジャンルにおいてプロモーションツールとして活用されている。

このようなVRゴーグルを利用すると、360度仮想空間に囲まれより一層臨場感が得られる

仏教の聖地・延暦寺が挑戦した最新技術"VR動画"配信の理由

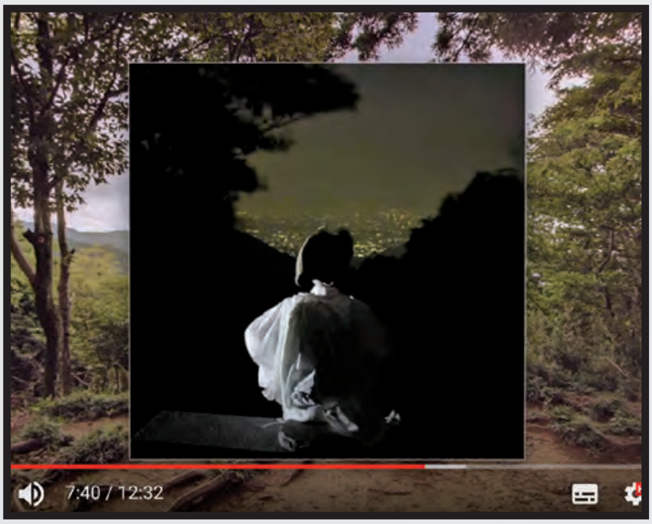
回峰行者が巡るルートをVR動画で疑似体験

歌舞伎役者市川猿之助氏を案内役に起用した、延暦寺のVR動画『市川猿之助と巡る 比叡山 回峰行者の歩む道』が話題を集めている。天台宗では、2012（平成24）年4月より祖師先徳鑽仰大法会が執り行われている。その一つ、相応和尚一千百年御遠忌を記念し、天台宗総合研究センターが提案、天台宗と延暦寺が協力して制作された。市川猿之助氏と共に、延暦寺に一千年以上受け継がれてきた千日回峰行の行者道を辿りながら、各堂や修行を紹介している。天台宗と延暦寺が、このような最新の映像プロモーションを展開する理由とは何か。はじめに、天台宗総合研究センター第3班の霜村叡真主任にお話を聞いた。

「我々は、相応和尚一千百年御遠忌にあたり、新たなメディアでの情報発信を模索していました。相応和尚は回峰行の始祖であることから、回峰行者がどのような場所にお参りをして、どのような行を行っているのかを一般の方々にも知っていただく、というのが発想の根本でした。そしてそのルートを巡り歩く体験ができるVR動画という手法を選んだのです。比叡山にはこれだけの空間と建物があります。一度も来たことのない人にとっては新鮮な疑似体験となるでしょう」

VR動画にすることで360度見えることから、現在地から左に向けば何があり、右に向けば何がある、ということが分かる。真下には比叡山の地図も用意されて、境内に点在する建物の位置関係も理解できる。

「根本中堂のように荘厳な建物の内部は、360度見渡すことでその空間のイメージ、漂う空気感を少しだけでも実感していただけるのではないかと思います。二百に及ぶ草花が極彩色で描かれた花天井も臨場感を持ってご覧いただけるのではないでしょうか」



VR動画『市川猿之助と巡る 比叡山 回峰行者の歩む道』では、無動寺明王堂、延暦寺の山門となる文殊楼、比叡山の中心的なお堂の根本中堂、浄土院、にない堂、玉体杉、おみくじ発祥の地の元三大師堂、日吉大社の8カ所を辿ることができる

延暦寺総本堂で「不滅の法灯」がある根本中堂の内部のシーン。VR動画なら国宝に指定されたこの建物の内部を、360度見渡すことができる

動画で伝えることの重要性と回峰行の理解深化のはざまで

とはいえ、仏教の聖地として伝統を守り続ける延暦寺が、秘匿性の高い回峰行の紹介に、このような最新技術を使ったプロモーションに取り組むということに驚きを感じる。このあたりを、延暦寺責任役員・副執行である小鴨覚俊（こがもかくしゅん）教化部長にうかがった。

「このような斬新な手法を用いることに最初は高いハードルがありました」。今回は仮想空間で、主に家に居ながらにして観るというもの。ここが内部で問題視された。回峰行への理解とは、そのような形でなされるものではないと。「確かにその通りですが、役員たちも、動画での発信の重要性というものは理解していますので、数カ月間検討を重ねて、〝回峰行のルートをレポートする〟という形で一同が同意したという次第です」

千日回峰行への理解も深い市川猿之助氏がレポーターに

では誰がレポートするのか、というのも課題となった。やはり動画を観る気のない人をも観る気にさせることが重要、有名人に登場してもらうこととなった。

そこで白羽の矢が立ったのは歌舞伎役者の市川猿之助氏だ。「猿之助さんは元来お寺巡りがお好きで、延暦寺に対してもファンを公言しておられて参拝にもよくおいで頂いています。仏教の知識は豊富で、千日回峰行への理解も深い。仏像も収集されているようで、日々、読経もしておられるとのことです。そのようなご縁から、ご出演をお願いいたしました」と小鴨教化部長。

今後も続けていくという動画配信延暦寺が見せるチャレンジの姿勢

毎年比叡山から発信する言葉を掲げる延暦寺。今年の言葉は「憶和敬（おくわけい）〜和して敬うを憶う〜」である。日本仏教の聖地という立場をしっかり守り継承しながらも、今後もこのようなチャレンジングな試みも含めて情報発信を強化していくと小鴨教化部長は言う。「マスコミの方々からはよい評価を頂いておりますが、動画をご覧になられた一般の方々からの意見も吸い上げて、今後の参考とさせていただきたいと思います。今回の動画は専門業者さんに制作してもらいましたが、この度、VR動画が撮れるカメラも購入しました。根本中堂改修工事の実況や比叡山からの琵琶湖の絶景など、今後も定期的にVR動画をアップしていきたいと思っています。これにより、より多くの方々に比叡山延暦寺を参拝いただけるよう願っております」

天台宗総本山 比叡山延暦寺
〒520-0116
滋賀県大津市坂本本町4220
TEL：077-578-0001（代）
http://www.hieizan.or.jp/

※VR動画『市川猿之助と巡る 比叡山回峰行者の歩む道』はこちらの公式サイトから見ることができる

延暦寺責任役員・副執行で教化部長でもある小鴨覚俊(こがもかくしゅん)さん

天台宗総合研究センター第3班主任の霜村叡真（しもむらえいしん）さん

案内役は、仏教に造詣が深い歌舞伎俳優の市川猿之助さん

【日光東照宮・凸版印刷】
高精細撮影とCGでVR作品を制作。施設の大型スクリーンで上映

江戸時代の極彩色な陽明門をCGで再現 デジタルアーカイブ技術でVR作品を制作

日光東照宮と凸版印刷が共同してVR作品制作へ

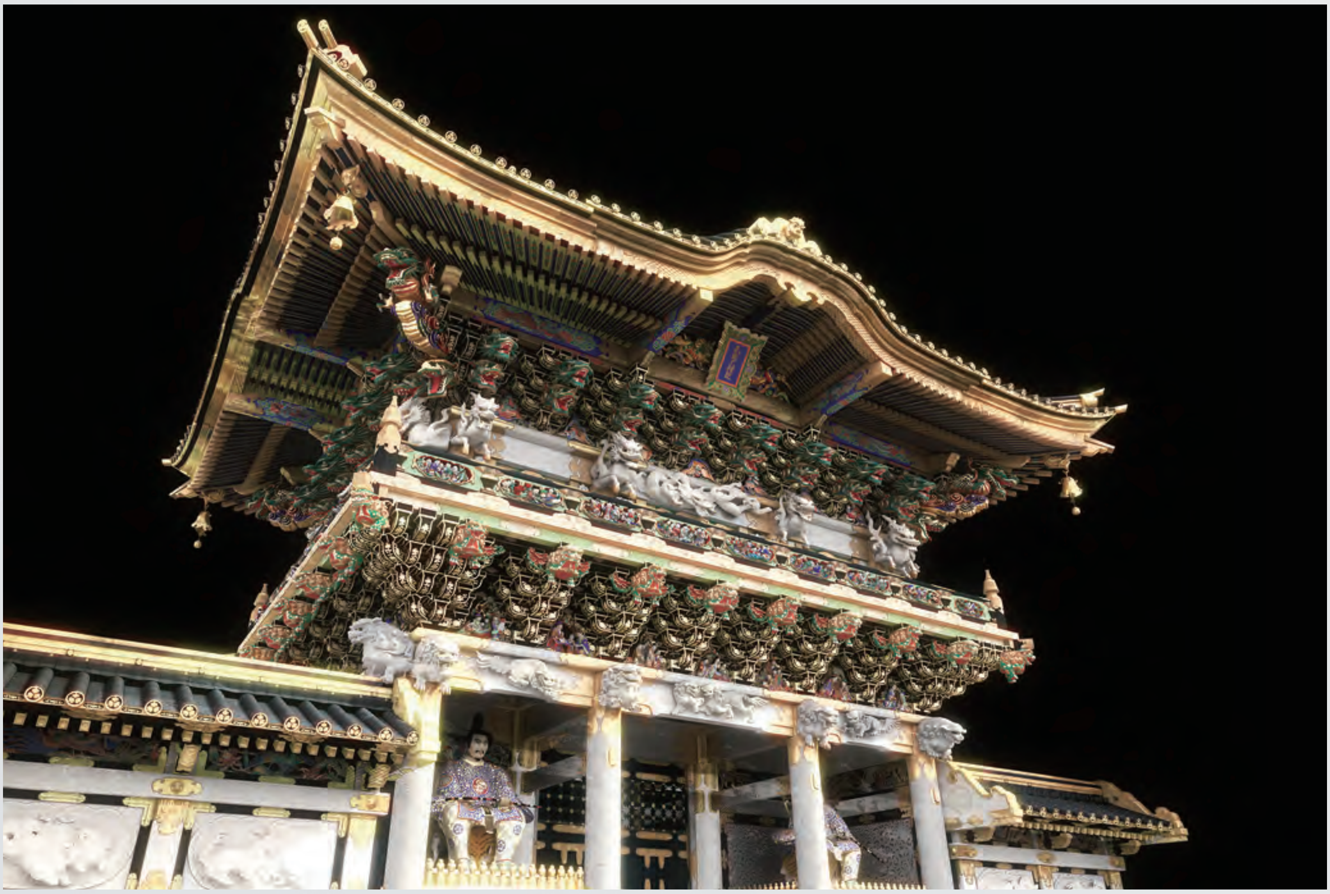
凸版印刷株式会社は、文化財のデジタル化や東京国立博物館でのバーチャルリアリティ作品上演などを通じて、文化財の価値や魅力を伝える取り組みを手掛けてきた。

日光東照宮が凸版印刷と共同でVR作品を制作することとなったのは2008（平成20）年。2012（平成24）年夏から具体的なコンテンツ企画の検討を進め始め、日光東照宮の象徴である「国宝 陽明門」と、同宮の歴史を物語る「重文 東照社縁起」という絵巻物をテーマとすることに決まった。「四百年式年大祭」を7年後の2015（平成27）年に控えていた日光東照宮。歴史や社殿の意義を広く伝える手法を検討していた中、凸版印刷からの提案や実績を評価した上でのVR作品共同制作の決定であった。

企画から完成までは約1年。陽明門の3Dスキャニングが約1週間。その他、数度に渡って丁寧な写真撮影を実施したという。このVR作品では、普段は離れた場所からしか見ることのできない彫刻をじっくり目近に鑑賞でき、制作当時はまだ修復前だった陽明門の色鮮やかな姿を再現している。制作にあたっては、早朝および夕方以降に足場を組み、丁寧に計測・撮影した。また、陽明門の保存修理に関わっている日光社寺文化財保存会の方々に、実際に使われている顔料の色見本の提供や、制作したデータを確認してもらうなどの協力も仰いでいる。

文化財保存活用のためのデジタル映像技術をVRに活用

凸版印刷は寺院や神社が保有する文化財を、保存活用して次世代へ守り継いでいくこと、多くの人々にその魅力や価値を伝えていくことを大切なミッションと考えている。そのため文化財の保存・修繕に役立つデジタルアーカイブや、文化財の魅力や価値



VR作品『日光東照宮 国宝 陽明門』では、門全体をさまざまな角度から見ることができる

を多くの人々に伝える媒体としてのVRを活用している。

凸版印刷の担当者は、VR技術の可能性について次のように語る。

「VR技術で実現できることや、その体験方法にはさまざまなバリエーションがあります。VR作品『日光東照宮　国宝　陽明門』は大型シアターで鑑賞する作品ですが、近年は頭部に装着するゴーグル型ディスプレイや、スマホで体験できるVR作品が数多く見られるようになりました。作品の作り方も、全周囲を撮影した映像を見るだけのものから、CGを用いた作品までさまざまです。目的と長期的な運用を考慮して、最適な方法で公開することが大切だと考えます」

凸版印刷ではまず対象とする文化財を精緻に記録するために最先端の技術を取り入れている。VR作品として鑑賞できるようにするのは、あくまでもその記録データの一つの活用方法として位置づけられている。こうした取り組みを通じて、今後寺社においても、最先端の技術を取り入れ文化財を記録保存することで、それを活用し文化財を公開するといった「保存と公開」の新たな可能性が広がっていく。

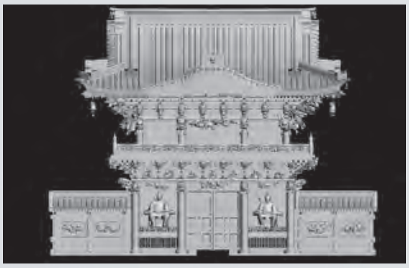
VR作品『日光東照宮 国宝 陽明門』の企画から完成までの制作のフロー

①企画／構成

②陽明門のデジタル化(高精細撮影の様子)

協力:日光東照宮

③CGデータ加工



④彩色再現／創建当初再現

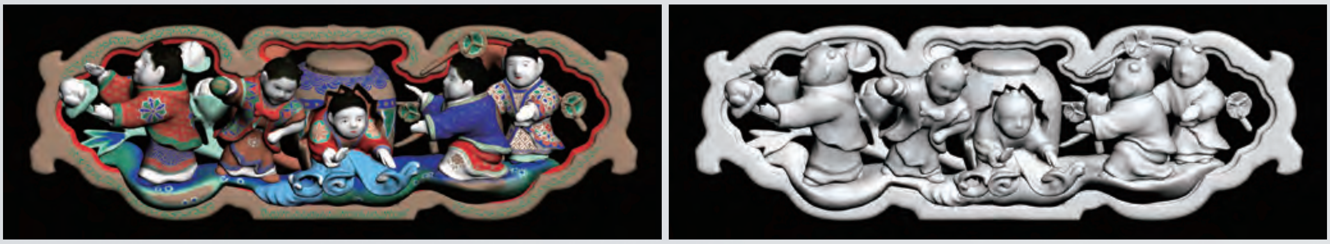
⑤VRインテグレーション(プログラミング開発)

⑥編集／演出(ナレーション収録など)

VR作品『日光東照宮　国宝　陽明門』
製作・著作:日光東照宮／凸版印刷株式会社

凸版印刷株式会社
文化事業推進本部
〒112-8531
東京都文京区水道 1-3-3
http://www.toppan-vr.jp/bunka/

※VR作品『日光東照宮 国宝 陽明門』は、日光東照宮宝物館シアターで見ることができる



彫刻を3Dスキャニングしたデータ（右）に修復記録や実際に使われる顔料サンプルを参考に色彩再現（左）

彫刻の細部までも修復後の状態をCGで再現

【曹洞宗赤城山　西福寺】サイトで手軽に公開できるVR静止画像

石川雲蝶の彫刻で彩られた開山堂を360度見渡せるパノラマフォトで公開

お堂に感動した制作会社が無料でパノラマフォトを撮影

新潟県魚沼市にある赤城山西福寺の開山堂。〝越後のミケランジェロ〟と言われる幕末の名彫り物師、石川雲蝶の彫刻で一面彩られている。中でも天井全面に施された大彫刻『道元禅師猛虎調伏の図』は、透かし彫りの繊細さ、極彩色の鮮やかさで見るものを圧倒する迫力をもっている。西福寺はこの開山堂の内部を360度観ることができるパノラマフォトをホームページに公開している。その経緯について、平澤龍彦副住職にお話を聞いた。

きっかけは、ある映像制作会社のスタッフが開山堂を参拝したことから。「このお堂に感動され、まさにパノラマフォトに相応しい被写体だと思われたようで『ぜひパノラマフォトを撮影させてほしい。費用もいらない』とおっしゃられました」と平澤副住職。撮影は拝観時間終了後2~3時間で終わったが、仕上がった画像を観た平澤副住職はこう思った、「お堂の中全体に施されている彫刻が、360度観ることができ、さらに各彫刻の細かい部分まで観察することができました。これは素晴らしいものだと」

映像制作会社は画像データを「ご自由にお使いください」と西福寺に渡した。本来、開山堂の内部は撮影禁止。これをホームページで公開するのは問題があるのでは、という意見も出たようだが、「その出来栄えが素晴らしかったこと、そして何事もやってみなければ分からないと思い、公開することにしました。もちろん実際に足を運んでお参りしていただくのがベストですけれど、体の自由がきかない方にも、遠方におられる方にも西福寺のことを知っていただけるのではないかと思っています」

ネットで広がっていく情報　最新技術が紡ぐ新たなご縁

実際、インターネットでは一般ユーザーがこのパノラマツアーをブログに掲載するなど情報が拡散。今まで西福寺や石川雲蝶を知らなかった人にも知られるようになった。平澤副住職は「このような最新技術を用いることで新たなご縁をいただけるのであれば、今後も検討していきたいと思っています。魚沼地域には、他にも石川雲蝶の作品があるお寺があります。今後、そういったお寺とも連携していければと思っています」と、さらなる広がりを考えている。

初代住職である芳室祖春(ほうしつそしゅん)以来の歴代住職を祀っている開山堂。堂内一面に石川雲蝶の彫刻が施されている

曹洞宗赤城山　西福寺
〒946-0033
新潟県魚沼市大浦174
TEL：025-792-3032
http://www.saifukuji-k.com/
※開山堂の360度パノラマVR静止画像はこちらの公式サイトから見ることができる

プロモーションの最新技術VRが寺社にもたらす効果とは

VRの特徴とは何か なぜ今注目されているのか

数年前からプロモーションの最新技術として注目されてきたVR。寺社にとってこの映像技術はどんな意味があるのか。VR動画など最新映像技術に詳しい、TimeAge株式会社取締役の一筆芳巳さんに聞いた。

まず、VRの大きな特長について一筆さんは、通常の動画と違い、360度ぐるりと見ることができるため、まるでそこにいるかのような臨場感があることをあげる。延暦寺のVR動画『市川猿之助と巡る 比叡山 回峰行者の歩む道』について、「こちらは信仰を伝えることが目的のようですが、回峰行のルートを臨場感一杯に体感でき、撮影技術や編集技術は大変クオリティの高いものです」と語る。

TimeAge株式会社取締役の一筆芳巳さん

そしてVRが寺社で利用されるようになってきたもう一つの理由として〝文化財の公開と保存の相反関係〟というテーマが横たわっているという。「寺社には、歴史的、文化的、芸術的な価値のある文化財を所有されているところが多数あります。しかし、これらを多くの人に見てもらうということは、リスクを伴います。例えば、ご本尊となる仏像は一般的に屋内の暗い場所に安置されていますが、人に見てもらおうと思えば照明を当てなければならない。そうなると、ご本尊が照明の熱で劣化するという問題がある」。

そこで、デジタルアーカイブという発想が生きてくる。「デジタルの世界で保存し、活用するということです。最新の技術を使って高精細な映像にしておけば、それを加工することで実物を晒すことなく、多くの人にその文化財の価値を認識してもらえます。代表的なものが、凸版印刷が制作したVR作品『日光東照宮 国宝 陽明門』ですね」

気になる費用感 手頃に制作する方法は

では費用感はどの程度だろうか。

「動画の演出費用や編集技術で大きな差が出ますが、一般的にVR動画を制作するとなれば、撮影から編集までで百万円以上は必要でしょうか」

しかしそれほどの費用をかけなくても、自らVR動画を撮影するという方法もある。「今では5～6万円で360度動画が撮影できるカメラも販売されています。単にVR静止画像や動画をアップするだけなら、この機材を使えばよいと思います」

撮影するだけでなく 世界に繋げていくべき

しかし、ただ単に動画撮影して終わり、というのではほとんど意味がないと、一筆さんは語る。

「そこから何に繋げるのか、というのが大切です。まずはネットにつなぐこと。世界に繋げておくことで、思いもよらなかったところからアクセスがあります。2020年の東京オリンピックに向けて、ネットの通信環境はどんどん進化している。今後さらに高画質なVR動画を、スマホで快適に観ることができる時代となるでしょう」

今やVRは決して高価な技術ではない。目的に応じてさまざまな手法を選ぶことができる。経済産業省の平成29年度予算では「先進コンテンツ技術による地域活性化事業」で、VRやAR（拡張現実）、ドローン、AI（人工知能）などによる表現技術に補助金が交付された。来年度以降の予算で、同様の補助金が公募されれば、寺社での最新映像技術の活用方法と合わせ、本誌でも紹介していきたい。

TimeAge株式会社
〒602-8061
京都市上京区油小路通中立売
西入ル甲斐守町97
西陣産業創造会館1F
TEL：075-204-5209
http://www.timeage.co.jp

事前登録の受付もスタート！

全国各地の宿泊できる寺院を、パソコンやスマホで検索&宿泊予約できるサービス

「テラハク」

temple stay

お寺に泊まろう。

テラハク

2018年という年は、観光立国をめざす日本にとって、さらには寺院にとっても、未来を占う大きなターニングポイントになるかもしれない。そのきっかけとなるのが、6月に施行される民泊新法（正式名称・住宅宿泊事業法）だ。〝民泊〟は、個人宅やマンションの空き部屋などを貸し出す新しいタイプの宿泊スタイルとして近年注目されているが、民泊新法の施行によって国

「テラハク」では、サービス開始に先立って、客間や庫裏など空きスペースの提供を希望する寺院の事前登録を受付中　http://terahaku.jp/

がその流れを後押しする形となる。

そうした潮流の中で、全国各地の宿泊できる寺院をパソコンやスマートフォン（スマホ）で検索し、宿泊予約までできる画期的なwebサービス「テラハク」がデビューしようとしている。「テラハク」には、宿坊のみならず、新たに〝民泊〟を始めようとする数多くの寺院が登録・掲載されることになる。

寺院内の空き部屋の活用や地域活性化への貢献、新たなご縁の創出など、伝統文化を次の世代へとつなぐ、またとない好機到来と言えるかもしれない。

ただ、取り組もうと思っても〝何から始めたらいいのかわからない〟のが実情だろう。そこで、民泊の準備から運営面に到るまでフルサポートするという「テラハク」の詳細をお伝えしたい。

旅館業法（ホテル・旅館）と比較しての民泊新法の特徴

※自治体により異なる

●空き家・空き部屋を活用できる

●設備投資に多大な費用がかからない

ホテルや旅館の場合、宿泊施設の建設や消防設備の整備、フロントの設置など、多大な費用がかかるが、民泊にはそれがない

●食事の提供は随意

食事を必ず提供しなければいけない決まりはない。旅館業法では食堂や厨房を備えることが求められる。しかし、民泊では居住用のキッチンがあれば十分

●宿泊者との交流を楽しめる

法律ではないが、宿泊者は部屋の受け入れ側との交流を期待している人も多く、民泊人気のひとつとなっている

寺院宿泊仲介サイトとしての「テラハク」の仕組み

寺院の空き部屋を有効活用

上の図は、6月にスタートする「テラハク」の全体の流れを示したものだ。寺院が施設の情報や宿泊受け入れ可能な日などを寺院宿泊仲介サイト「テラハク」に随時掲載し、それを見た宿泊希望者がスマホやパソコンから予約をして、予約日に寺院を訪れて宿泊する。

寺院が「テラハク」に参加するにあたって最初のポイントは、寺院内の「どのスペースを宿泊施設として活用するのか」である。

ホテルや旅館では、宿泊者を受け付けるフロントや食堂、厨房などが求められるが、民泊の場合、生活に最小限必要な居住用のキッチンや、トイレ、浴室、洗面台などがあればそれで事足り、「テラハク」に登録して宿泊者を迎えることができる。たとえばご子息が本山に修行に出ていて、しばらく空いている部屋を、不在の期間だけ民泊に活用することも可能となる。

パソコンやスマホで簡単発信

寺院が「テラハク」で宿泊者を受け入れるのに特別な知識や技能は必要ない。スマホやパソコンひとつで情報を発信し、宿泊者を迎えることができる。自治体にもよるが、最大年間180日以内であれば、受け入れの時期や日数も、寺院が自由に設定し、また必要に応じて随時変更することも容易にできる。たとえば、予定されている年中行事を避けるといったことも受け入れ側の自由。急な法事が入っても、当日に設定を変更することもできる。また極端な話、一年に一日だけ宿泊を受け入れるといったことも可能だ。

テラハクの登録から運営まで安心のフルサポート

寺院のどの部屋を民泊として活用するのかを決定し、「テラハク」で宿泊情報を発信することを決めたとし

ても、これまでに宿泊の受け入れをした経験がない場合、いろいろとわからないことや心配、不安もあるだろう。その点、「テラハク」には、登録から準備、そして実際の運営に到るまで、あらゆる状況に合わせてサポートする体制が整っている。次のページでは、そうしたサポート体制を中心に、注目の「テラハク」についてさらに解説する。

世界各地で国策として、寺院への宿泊を推進

韓国の伝統文化が体験できる「テンプルステイ」
外国人観光客にも人気だ

伝統的な寺院に宿泊できる韓国の「テンプルステイ」

近年、寺院に宿泊することは世界各地で“国策”として実施されているケースも多く、韓国仏教文化事業団と韓国観光公社は「テンプルステイ」プログラムを推進。現在約120ヵ所の寺院に泊まることができ、本格的な修行体験ができる。

スペイン、ポルトガルでは古城や修道院など歴史的建造物が国営ホテルに

スペインでは、国王の居城や宮殿、修道院などを改装した国営ホテル「パラドール」が100ヵ所近く誕生している。これはスペインが国を挙げて推進し、出資してきたものだ。なかでも世界遺産アルハンブラ宮殿の敷地内にある修道院を改装した「パラドール・デ・グラナダ」は特に有名で、高い集客力と収益を上げていることから、観光施策の成功例として世界的に知られている。

同様にポルトガルにおいても、40ヵ所以上の古城や修道院などを修復し、その維持を目的として「ポザーダ」の名称で、国営ホテルとして活用している。

いまや歴史や文化を体感できる寺院への宿泊推進は世界的な流れとなっているといえる。

地方への観光客の誘致に寄与するスペインの国営ホテル「パラドール」

さまざまな分野のトップ企業と連携する「テラハク」

民泊スタート前から運営まで安心のフルサポート

寺院の状況に合わせたサポートが可能となる体制

「テラハク」は単に寺院と宿泊者を繋ぐだけではなく、寺院の民泊スタートをサポートする体制を整えている。

「テラハク」は、日本を代表するさまざまなトップ企業と提携している。宿泊施設の水回りの修繕や、リフォームが必要な場合は提携先の大手住宅メーカーが頼りになる。電気やガスについては大手の電気事業者。運営時の日々の清掃や管理、セキュリティは大手セキュリティ会社と連携。万が一の保険に関しては、東京海上日動火災保険株式会社による「テラハク」専用の宿泊保険を提供する。このように「テラハク」というシステムは、いわば宿泊施設に関わる一流企業の集合体だと考えると分かりやすい。

さらに行政への届け出、保険加入、宿泊前対応、人の雇用など必要な業務も希望に応じてサポートする。つまり「テラハク」のサポートがあれば、寺院はこれらの企業と個別に契約する必要がなく、民泊開始に付随するさまざまな業務をすべて任せられる。

それぞれのサポートは有償となるが、「テラハク」では、宿泊に供する建物の状態や、人員の状況に合わせてサポート内容を提案する。もちろん寺院は必要なサポート内容をお好みで選択できる。

「テラハク」は全国各地の寺社と深いネットワークを持つ一般社団法人全国寺社観光協会が監修しているので、一般的な住宅を前提としている民泊運営支援サービスと違い、全て寺院に特化した内容となっている。民泊をはじめる寺院にとって何が必要なのかを熟知しているため、配慮が行き届いたサービスの提供が期待できる。

地域の雇用創出で近隣住民や檀家様とも関係強化

さらに言うと、民泊を開始すれば、室内清掃など、さまざまな雇用も創出される。これらの業務を全て「テラハク」に委託することも可能だが、地域住民の方々や檀家様にご対応いただければ、寺院と檀家様をはじめ近隣の人々との関係強化にも結びつく。

「テラハク」による地域社会での雇用創出を通じて、寺院と地域の両者に有益な関係を築くことも可能になるだろう。

まずは寺院としての想いや、〝こんなことまで相談しても良いのかな〟といった要望まで「テラハク」に伝えてほしい。

「テラハク」では寺院の状況に合わせて、さまざまなサポートを実施する

※一部のサポート内容は有償となる

temple stay
お寺に泊まろう。
テラハク

集客

国内や世界各地から宿泊者を呼び込める集客システム

＋

人気の大手宿泊仲介サイトとも提携

宿泊施設の運営代行

宿泊者の予約・問い合わせ対応からアメニティの用意・清掃、自治体への報告に至るまで運営業務を幅広く代行可能

宿泊施設の修繕・リフォーム

水回りなどの軽い修繕から、大規模なリフォームまでをおこなう。寺院の個性に合わせた内装デザインなども提案・施工が可能

民泊スタート前

- 申請手続き(弁護士・行政書士によるサポートチームがスタンバイ)
- リフォーム(大手住宅メーカー)
- 水回り(大手住宅メーカー)
- 照明(住宅設備機器業界最大手)

民泊スタート後

宿泊前

- 予約対応
- 問合せ対応
- チェックイン対応
- カギ渡し

宿泊中

宿泊後

- 清掃
- アメニティ

（宿泊中〜宿泊後）

- 宿泊保険(東京海上日動火災保険株式会社)
- 問合せ対応
- 苦情発生時の駆けつけ対応
- 警備(大手セキュリティサービス会社)

（宿泊前〜宿泊後）

- 電気・ガス(東証一部上場電気事業者)

さまざまな分野のトップ企業と連携し、民泊開始前から運営までを安心のフルサポート

大手宿泊仲介サイトとも提携
「テラハク」の集客と地域活性

国内や世界各地から宿泊者を呼び込める集客方法とそのメリット

集客においても民泊専用宿泊仲介サイトと提携しており、国内や世界各地から宿泊者を呼び込める体制を整えている（下図参照）。寺院が「テラハク」に登録すれば、大手宿泊仲介サイトへの登録や管理も代行してくれるのだ。一般的に宿泊施設が集客のために宿泊仲介サイトを利用する場合、まずは複数の宿泊仲介サイトに登録する。そのいずれかから予約が入った場合、その他のサイトでの掲載を中止する作業をいちいちしなければならない。

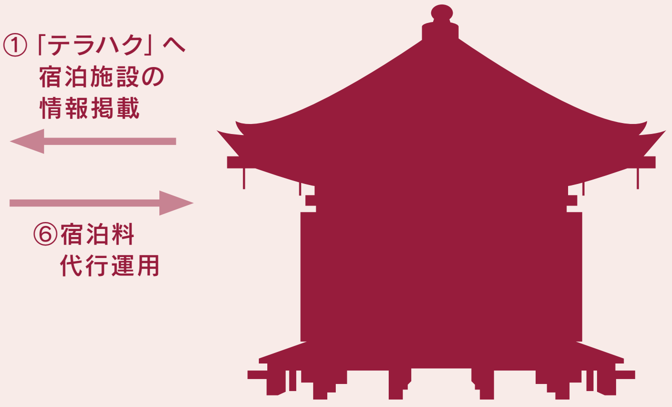
しかし他の宿泊仲介サイトでの掲載を中止するまでの短時間に、同じ部屋の宿泊予約が入ってしまい、ダブルブッキング（二重予約）になる危険性もある。「テラハク」なら、そういった面倒な作業も一切必要ないうえに、提携している大手宿泊仲介サイトで予約が入れば、「テラハク」では自動的に掲載中止となるシステムを構築している。それにより、ダブルブッキングの心配もない。

また、大手宿泊仲介サイトは、国内はもとより、海外の利用者も多数いるため、「テラハク」への登録を通じて、世界各地への告知が可能となる。海外からの宿泊者からしても、「テラハク」や大手宿泊仲介サイトを利用して〝寺院に宿泊する〟ということは、普段触れることのない日本の文化を肌で感じ、新たな世界観を獲得できる機会を得られる。

寺院によっては他の宿泊者と一緒に寝起きすることもあり、そこに生まれる国際的な交流は海外からの宿泊者にとっても興味深いものとなる。さらに坐禅や写経を体験として提供されている寺院であれば、より一層海外の人に関心を持ってもらえるだろう。「テラハク」への登録は、世界各地から宿泊者を呼び込む大きな契機となる。

「テラハク」に登録するだけで
大手宿泊仲介サイトからも
同時集客が可能

サイト「テラハク」



寺院（受け入れ側）

地域活性化への貢献、新たなご縁を創出する好機の到来

長期滞在がもたらす周辺地域への波及効果

寺院が宿泊者を受け入れるということは、周辺地域にも波及効果をもたらす。今までアクセスの問題などで日帰り観光すら難しかった地域にも、宿泊施設ができることで人が訪れる。

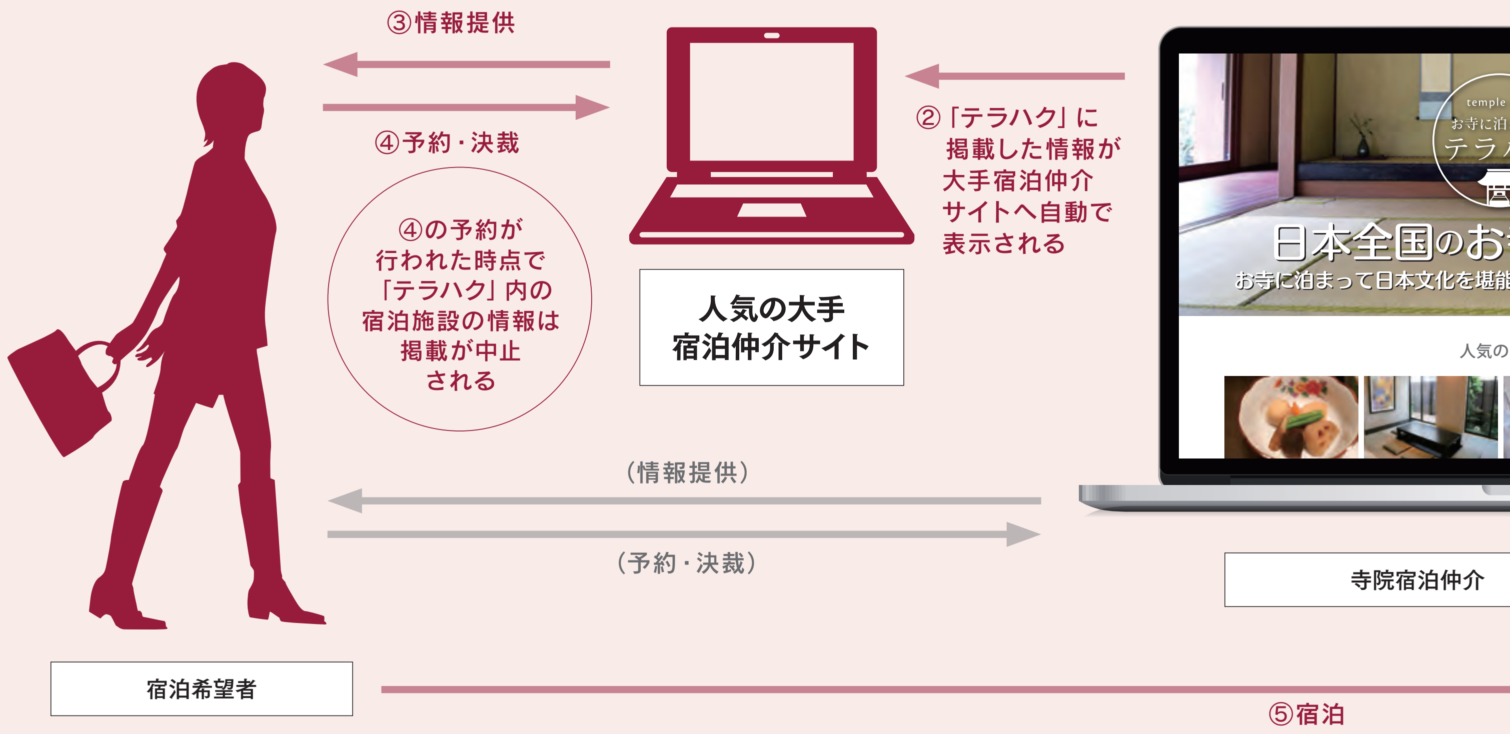
同様のケースで、実家や宿泊施設がないために法事への参加や墓参りを断念していた人も訪れやすい。

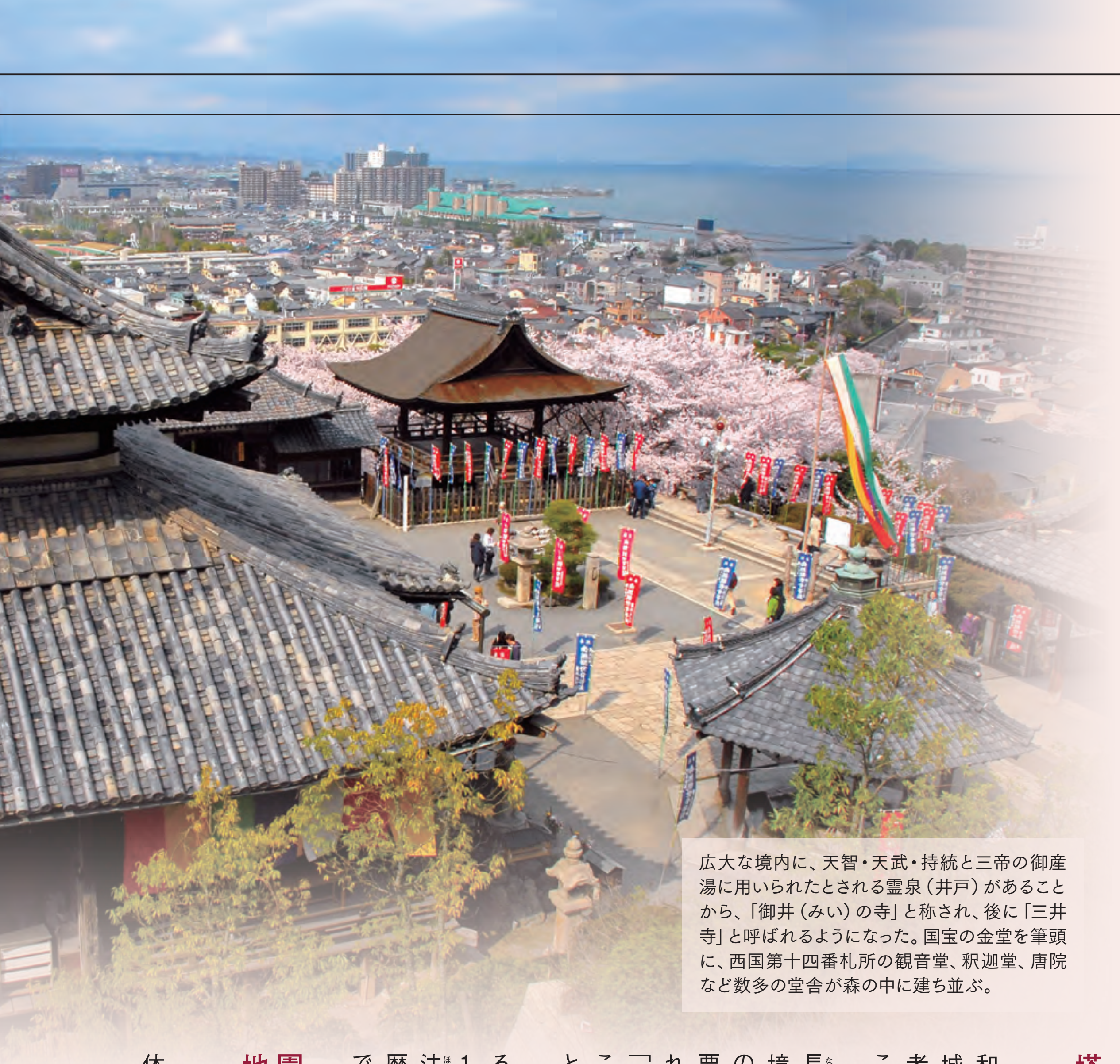
また、日帰りでそそくさと帰ってしまっていた観光客は長時間にわたり滞在することが可能となる。観光客が増加することや長時間滞在によって消費金額も増えることから、地域振興にも大きく寄与するだろう。結果として、地域における寺院の存在意義を理解してもらえる、絶好の機会になるに違いない。

参拝者の増加と長時間滞在が寺院への理解を深める

このように、「テラハク」登録による寺院にとって最も重要な点は、参拝者の長時間滞在により、新しい出会いとご縁が生まれ、寺院への理解が深まるということだ。寺院は古くから地域ネットワークの中心であった。その立ち位置を再認識し、伝統文化を次の世代へとつなぐ、またとない好機となるだろう。

まずは「テラハク」がどのようなものかを知るためにも、事前登録をおすすめしたい。





広大な境内に、天智・天武・持統と三帝の御産湯に用いられたとされる霊泉（井戸）があることから、「御井（みい）の寺」と称され、後に「三井寺」と呼ばれるようになった。国宝の金堂を筆頭に、西国第十四番札所の観音堂、釈迦堂、唐院など数多の堂舎が森の中に建ち並ぶ。

琵琶湖一望の名刹、園城寺（三井寺）も「テラハク」参加

寺院のさらなる魅力発信と地域活性の一助として

塔頭 妙厳院が宿泊可能に

「テラハク」を運営する株式会社和空。同社が、天台寺門宗総本山園城寺（三井寺）の塔頭を貸借し、参拝者が宿泊できる施設として運営することが予定されている。

園城寺は、東に琵琶湖を見下ろす長等山の中腹に35万坪という広大な境内を持ち、近江八景「三井の晩鐘」の地としても知られる名刹。国宝や重要文化財の所蔵点数も全国屈指。これほどの歴史と伝統のある大寺院が「テラハク」に参加するということから、この新サービスがどれほど大きな信頼と期待を集めているかが知れよう。

園城寺が宿泊施設として提供するのは、境内にある塔頭・妙厳院。1613（慶長18）年に安養院正玄法印により中興された僧房で、その歴史の空気を十分に堪能することができる。

園城寺と地域の固有の魅力を発信

園城寺では、これまでもさまざまな体験コースを提供してきた。まずは山伏体験。山伏の装束に着替え、午前の座学を経てから、滋賀と京都の境にある長等山で修行するというものだ。

さらに西国三十三所観音霊場、第十四番札所である観音堂客殿での坐禅体験、そして写経・写仏体験、京都の老舗小野珠数店の職人が教えるビーズブレスレット（腕輪念珠）の制作体験もある。本来、修験道や坐禅、写経というものは時間をかけて行われるもの。来訪者が宿泊することによってこれらの体験を、より深く理解してもらえることとなる。

来訪者が宿泊で得られる貴重な経験はこれだけではない。早朝に起き、すがすがしい空気の中で存分に深呼吸する。日中は歴史と文化に触れるさまざまな経験ができる。そして夜になれば、霊験あらたかな山の息づかい、静まり返った境内の厳粛な風情も堪能してもらうことができるようになる。

テラハクを通しさまざまなご縁が期待できる

来訪者の宿泊による長期滞在は、周辺地域の振興にも大いに寄与する。地域の魅力を今まで以上に理解して

春は桜、秋は紅葉の名所として知られ、季節の夜間ライトアップは寺院を幻想的な世界に変身させる

園城寺境内の塔頭、妙厳院。「テラハク」スタート時の6月より宿泊が可能となる

もらえば、来訪者のリピート率も上がるだろう。もちろん寺院にとっても、あらためて地域における存在意義を伝えることができるうえ、地域との結びつきも強くなる。

園城寺の福家俊彦（ふけとしひこ）執事長も、期待を寄せており「テラハクが、さまざまな体験を通じて一千三百年の歴史を刻んできた当山の歴史と文化に接していただく新しい機縁となればと思っております。大津市中心部は、東海道五十三次の宿場町、琵琶湖の海運を生かした港町として繁栄してきました。当山としても、その豊かで質の高い文化の潜在力を顕在化する、拠点の一つとなるよう力を注ぎたいと考えております」と語る。

「テラハク」は、これをモデルケースとして、次の展開を考えていて、今後さらに登録寺院が増えることは間違いなさそうだ。次号以降も、「テラハク」を監修する全国寺社観光協会発行の本誌ならではの、最新かつ有益な情報をお伝えしたい。

temple stay
お寺に泊まろう。
テラハク

寺院の事前登録（問い合わせ）受付中
テラハク http://terahaku.jp/
TEL:06-6356-2090
株式会社 和空

From the Past to the Future

寺社の伝統を継承する日本麻振興会の取り組み

全国の神社に感謝の心で 国産大麻(精麻)の注連縄や鈴の緒を奉納

①徳島県・上一宮大粟神社の神麻注連縄奉納式。SNSのみの呼びかけで全国から300名もの奉仕者が集った　②神棚のない家でも飾りやすい大麻飾り(リース型)　③精麻を抱える安間信裕理事。抱えている麻は、京都の神祇工芸職人の手によって注連縄になる　④注連縄の紙垂もひとつひとつ奉仕者の手によって作られる。老若男女の隔てなく誰でも参加できる奉納式となっている

国産精麻が持つ力を広く伝える試み

「国産大麻の注連縄を張っている神社は、1%にも満たないと言われています」と話すのは、日本麻振興会の理事を務める安間信裕(あんまのぶひろ)さん。全国の神社に、国産大麻を用いた注連縄や鈴の緒を奉納する活動を支える一人だ。

古来より、伊勢神宮のお札に「神宮大麻」と記されていることから、大麻は神の象徴であることが分かる。しかし、国内の大麻生産農家は少なく高年齢化も深刻なため、国産大麻はたいへん貴重なものに。その影響を受け、神社の注連縄も国産大麻から化学繊維や海外産大麻へと姿を変えている。

海外産の大麻は、製造工程で薬品などが用いられ、繊維が傷んで弱くなったものが少なくない。一方日本古来の神道に用いられる大麻は、大麻を微生物により発酵させ茎から表皮を剥ぐなど、熟練の技によって加工された精麻(せいま)を使うので、とても丈夫で長持ちする。

家庭向け「大麻飾り(リース型)」限定100個が3日で完売

活動を始めて2年。これまで全国の神社に国産大麻の注連縄を奉納してきた安間さん。このたび「大麻飾り(リース型)」を100個限定で販売を案内したところ、わずか3日で完売したという。「注連縄として作る前の精麻を必ず奉納する神社で祈祷していただきます。注連縄を作って残った、祈祷されてご神徳を得た大麻を皆様に届けたく、神棚が無い家でも飾りやすいようにリース型にしました」

精麻は穢(けが)れを祓(はら)う力があり毎日触れることが良いと言われている。多くの人がその力や大切さに気づき始めているのかもしれない。

全国から100名を超える奉仕者が集う神麻注連縄奉納式

今年も、千葉県や徳島県に鎮座する三つの神社に注連縄を奉納する予定だ。「神麻注連縄奉納式には全国から100名を超える奉仕者が毎回集まり、全員の手で注連縄を外し、新たな注連縄に架け替えています。宮司様、氏子様、地元の崇敬者様、そして私たち神麻注連縄奉納有志の会メンバーが、感謝の心で神様に奉仕させていただくことが大切だと感じています」。奉納した多くの神社の宮司から安間さんのもとに「今まで以上に神社を大切に護る気持ちが強くなった」という、感謝の言葉が届けられているそうだ。

<日本麻振興会>
国内大麻生産農家、神職、伝統芸能関係者、大学研究者など、約1万8千人が登録。

<問い合わせ先>
神麻注連縄奉納有志の会
(しんましめなわほうのうゆうしのかい)
〒115-0042
東京都北区志茂1-35-3 301
http://shinmahounou.com/

From the Past to the Future

伝統と文化を継承する職人名鑑

株式会社便利堂 写真部　岩村 孝

国宝を写し遺す、100年先まで繋がる仕事

(右)巨大な「縦型原寸分解撮影カメラ」を扱う岩村孝さん。撮影には最低2人以上の手が必要となる(左上)カメラの裏側。原寸大で画像を確認しながらシャッターを押す（左中）文化財の撮影にはカメラメーカーと共同開発した独自のカメラを使う場合が多い。このカメラは藤ノ木古墳の撮影時に用意したもの（左下）冷泉家文書撮影の様子

<株式会社便利堂>
〒604-0093　京都市中京区新町通
竹屋町下ル弁財天町302
TEL075-231-4351
http://www.benrido.co.jp

便利堂の創業は130年前。国宝を中心に広く文化財の撮影とコロタイプ印刷を手掛ける。法隆寺の金堂壁画が焼失した後に復元できたのも80年以上前の1935（昭和10）年、便利堂が撮影とコロタイプ印刷により複製をしていたおかげである。

そしてこのたび完成した、約800年前から伝わる冷泉家文書の写真版複製本全100巻の撮影を、25年かけて手掛けたのが同社写真部の岩村孝さんである。

岩村さんは「私の撮影した写真がベースとなり、コロタイプ印刷を通して文化財の保存と普及がなされます。目にする機会も稀な国宝を撮影することが多いため慎重に、そして過度なくらい準備をします」と話す。

撮影によっては現場に巨大な機材を持ち込んだり、正倉院のように白衣を着用するなどルールはさまざま。

「当然撮影には緊張を伴いますが、その写真が、礎となり文化財の今の姿を後生に伝えることができる。それが仕事の原動力となっていますね」と目を輝かせていた。

【コロタイプ印刷とは】
約150年前フランスで生まれた印刷技術。美しいガラス板を原板に使用し微妙な色彩変化や筆力の忠実な表現を可能とする。

円山応挙の襖絵

（まるやまおうきょのふすまえ）

165面の重要文化財が広がる荘厳な空間

(上)円山応挙作品の中でもとりわけ著名な、孔雀の間に描かれた襖絵(再製画)

(右下)円山応挙の代表的トリック画法「八方にらみ」が見られる芭蕉の間の襖絵。少年の足元と硯に注目して襖に向かって左右どちらから見ても、少年はお尻を振りながら体を回して常にこちらを向くように見える

(左下)山岨眞應副住職

応挙の緻密な計算により具現化された宗教的空間

「応挙寺」の名で知られる大乗寺。江戸中期の画家で現在も続く円山派の祖である円山応挙と、その一門が手掛けた襖絵が有名。所蔵する作品のうち実に165面が国の重要文化財に指定されている。

13部屋からなる客殿の襖に描かれたモチーフは応挙の緻密な計算によって立体的に配され、差し込む光や磨かれた床の間への映り込みなど、襖の先の空間までをも含めた宗教的空間を具現化した作品となっている。

この壮大な芸術を体感できるよう、大乗寺は2004（平成16）年にデジタルミュージアムを開設した。当時の最先端技術を集めて作ったこのサイトは山岨（やまそば）眞應（しんのう）副住職のアイデアによって実現したものである。

最先端技術での情報発信も実物を体感してもらいたいため

実は山岨副住職は、僧侶となる以前は研究者として化学メーカーで印刷やインキの開発に携わっていた。また、文化財を保護するために必要な資金を募る"襖絵保存プロジェクト"を立ち上げ、現在進行中だ。

こうした文化財の保存や公開について、山岨副住職は「時代に合わせたPRを行なっていますが、私自身は生活空間の中にある、ありのままの姿を見て欲しい」と話す。

より多くの人にこの襖絵を見てもらえるよう、SNSなども積極的に取り入れているという。

応挙が描く日本画は光と闇の世界。襖の枠にとらわれず、襖から続く何もない空間に見えないものまで描いて見せた。「体験をこそしていただくことで、文化財が単に美術品としてだけではなく、それ以上の価値を持つと考えています」と、実物を体感することの意義について語ってくれた。

現在のデジタルミュージアム。スマートフォンでの表示に合わせたリニューアルを予定

高野山真言宗 亀居山 大乗寺（こうやさんしんごんしゅう かめいざん だいじょうじ）
〒669-6545 兵庫県美方郡
香美町香住区森860
TEL：0796-36-0602
http://museum.daijyoji.or.jp/

難船彫刻絵馬

初代宮司の指揮のもと制作された絵馬が日本遺産に

(上)拝殿中央に掲げてある縦53cm、横153cmのケヤキの一枚板に彫られた「難船彫刻絵馬」

(右下)初代宮司鈴木高義の時代から伝わる難船の絵の版木を、神主が一枚一枚刷り上げお守りに折り畳んで入れられている

(左下)絵馬の絵柄がよく分かる写しを手にする鈴木禰宜

金刀比羅様の御神徳を広く世間に伝えるために制作

絵馬は1897（明治30）年、日本のミケランジェロと賞賛された石川雲蝶の弟子・長谷川雲越らによって制作。1984（昭和59）年に新潟市有形民俗文化財、さらに2017（平成29）年、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間〜北前船寄港地・船主集落〜」を構成する文化財の一つとして文化庁の日本遺産に認定されている。

金刀比羅神社の宮司を務める鈴木家はもともと、北前船の廻船問屋を営んでいた。1821（文政4）年、船頭だった鈴木三平が嵐に遭って難破しかけたが、金刀比羅様によって救われたという。絵馬はこの話を聞いていた三平の孫、初代宮司の鈴木高義が制作を指揮した。鈴木裕之禰宜は「絵馬は金刀比羅神社の御神徳をあらわすもの。初代宮司は、金刀比羅様がいざという時に助けてくださる神様であることを広く伝えたかったのでは」と話す。

絵馬の理解を深めるため独自の取り組みを推進

江戸から明治期に巨万の富を築いた北前船の壮大なストーリーの一端をなす港町エリアは現在、「まち歩きコース」になっており、金刀比羅神社を訪れる観光客も増えた。金刀比羅神社でも絵柄がよく分かる絵馬の写しを入口に展示したり、授業の一環として訪れる地元小学生に解説するなど、絵馬への理解を広める取り組みを進めている。日本遺産認定を機に御朱印も一新。荒波を描き、日本遺産という文字も加えられた。栄華を誇った北前船の歴史、そして人々の信仰心を生き生きと今に伝えている。

弥五左ェ門 金刀比羅神社

〒951-8086　新潟県新潟市中央区寄合町4579番地
TEL：025-222-7591
http://niigata-konpira.jp/

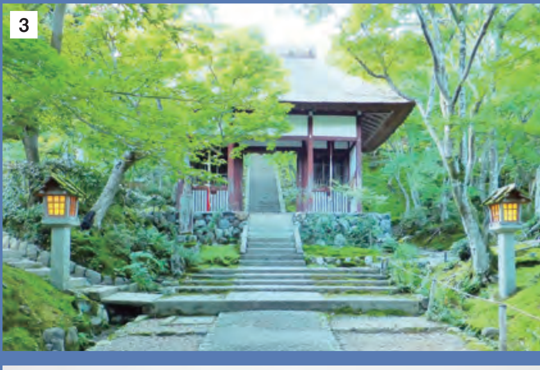
一新された御朱印

1

風まかせ 18

特別寄稿　野田博明

2


3

4

5

百人一首は暗号の万華鏡

藤原定家は日記、『明月記』に「嵯峨中院障子色紙形、ことさらに予(よ)書くべきの由、かの入道懇切なり」と小倉百人一首を撰じた動機、形式を書き記している。入道とは宇都宮頼綱のことで北条時政の娘を妻とする鎌倉幕府の豪富・有力な御家人であったが、出家後に豪壮な別荘を嵯峨中院に構え歌道にいそしむなど悠々自適の生活を送っていた。

摂関家に家司(けいし)として仕える下級貴族の定家は頼綱の娘を長男・為家の嫁として迎え、勃興する武家政権の世に確かな地歩を築く。その頼綱が別荘の障子に歌仙百人の似せ絵と歌を書いて欲しいと定家に依頼したものが、後世、小倉色紙と呼ばれ、巷間に歌留多として広まる小倉百人一首である。小倉山の麓に建つ時雨亭で定家は撰考に努めたとされるが、現在、それに比定される史跡が嵯峨野の二尊院と常寂光寺に残されている。

『明月記』はさらに、「古来の人の歌各一首、天智天皇より以来、家隆、雅経に及ぶ」と撰歌の範囲を仄(ほの)めかす。そのためか、後世の和歌の研究者やミステリーファンまでが百人を撰んだ基準は何か、なぜこの一首でこの配列なのか、99番、100番の後鳥羽院・順徳天皇は端(はな)から入っていたのか等々これまで百人一首の謎に迫るべくさまざまな書籍が上梓されている。

かの白洲正子女史も『私の百人一首』で〝二つの歌を一組にするのが歌合せの伝統〟〝定家は漫然といい歌をえらんだのではない、各々の人間関係とそれにまつわる逸話や伝説、宮廷における立場といったようなことまで細かく心を用いている〟と論評する。が、和歌の世界に造詣もない筆者に定家の潜み声が届いたのだから、世の中そう捨てたものではない。怨霊と化した崇徳院の〝瀬をはやみ〟を詠じ、次なる78番の〝淡路島かよふ千鳥の〟に目を転じたときである。百人一首の中では一応人気のある札らしいが、江戸時代の注釈書『百人一首一夕話(ひとよがたり)』は作者の源兼昌の行状詳らかならず、定家が本歌取りした元歌だから採ったのだろうと取りつく島もないほど素っ気ない。なぜこの一首を保元の乱で敵味方となった関白・藤原忠通（76番）、崇徳院の次においたのか。歌合せの形式であれば崇徳院・兼昌の組合せで一組である。この二首に隠された共通項は何かと目を凝らしたとき、〝淡路島〟の発句が飛び込んできた。淡路廃帝(はいたい)、8世紀に起きた藤原仲麻呂の乱で淡路国へ流罪となり同地で暗殺されたとも伝わる淳仁天皇、怨霊となった天皇である。

浅学にして廃帝に秀歌が在るか否かは知らぬが、在ったとしたら直截にそれを収載しただろうか。妖艶、有心を窮めんとした定家がそんな露骨なことをするはずがない。淡路島を暗喩として使ったのではないか。かつて本歌取りした淡路の歌をそっと崇徳院に組合せたのだろうと子供じみた好奇心で百人一首を読み返すと定家の埋め込んだ暗号が万華鏡のようにいくつも現れ出てきた。『明月記』に仄めかした「家隆、雅経に及ぶ」がその一つである。定家は自身の〝来ぬ人を〟身を焦がしつつ待つ恋歌を97番目に置く。次に〝風そよぐならの小川の夕暮れは御禊(みそぎ)ぞ夏のしるしなりけり〟と、上賀茂神社の夏越(なごし)の祓(はらえ)の情景を詠う藤原家隆を配した。能の〝定家〟が描く忍ぶ恋の相手、式子(しょくし)内親王への永久(とわ)の恋。賀茂のなら川で御禊し賀茂神社の斎院となった内親王への焦がれるような想い、斎宮を退き隠棲の日々を

おくる女人との禁断の恋を歌の世界を超え認め合う盟友の歌に重ねたに違いない。

　やはり「家隆に及ぶ」と、当初は家隆の一首が最後を飾っていた、そして、巷間いわれるように鎌倉幕府に遠慮して承久の乱の首謀者である後鳥羽・順徳帝は採択せず、藤原長方など別の歌が入っていたのかもしれない。内親王の〝玉の緒よ絶えなば絶えね長らへば　忍ぶることのよはりもぞする〟二人の忍ぶ恋は百人一首の世界で今も絶え入るかのようにひそやかに息づいている。般舟院御陵の脇にある内親王のお墓は妄執の定家葛に纏わりつかれているかと思いきや、小さな塚の上に神寂びた石仏たちに囲まれ楚々と瀟洒な佇まいをみせていた。さて、「天智天皇より以来」と1番に天智天皇を配した定家の意図は何か。天智天皇は大化の改新で、今は乙巳の変というらしいが、中臣鎌足と談合して蘇我氏から王権を奪還、大功をなした鎌足に藤原の姓を授けた。つまり、藤原家の末枝に連なる下級貴族とはいえ、定家の属する貴族社会で藤原氏の栄華の礎を築かせた大恩ある天皇である。また、天武天皇の皇后、持統天皇も娘として天智の皇統を伝えていこうとした王である。後に、天武天皇の孫である淳仁天皇と孝謙上皇の確執のなかで起きた仲麻呂の乱が光仁天皇という天智皇統への大転換を惹起する。勃興期の藤原氏が結果として皇統転換に大きな役割を果たしたこととなった。

　そして、陽成院、河原の大臣と呼ばれた源融、光孝天皇の13番から続く三人である。時の摂政・藤原基経は陽成天皇を廃位に追い込み、皇嗣争いに自薦をしてきた嵯峨天皇の皇子・源融も排斥し、我が意に沿う光孝天皇を55歳という高齢で即位させた。藤原氏が外戚としての地位を盤石にさせてゆく駒となった天皇たちである。ここで皇統は嫡流から傍流の光孝天皇へと移り二度と直系へ戻ることはなく、今上天皇へとつながっていく。

　次が68番の三条院である。〝この世をばわが世とぞ思う〟摂関政治絶頂期の道長の時代である。娘の中宮・彰子の皇子を即位させるため眼病に苦しむ三条天皇をいびりぬき、終に譲位させる。わずか8歳の後一条天皇の誕生である。三条院の〝心にもあらで憂世にながらへば　恋しかるべき夜半の月かな〟。あまりに厭世的、絶唱とも聴こえる貴族政治の爛熟、腐敗の臭いを感じさせる歌である。

　最後に後鳥羽院と順徳天皇である。各々、隠岐の島と佐渡島に配流され、同地で生涯を閉じられた。後鳥羽院が自ら朱の御手印を押した宸翰に綴った「この世の妄念により魔物となれば災いをなし」と、崇徳院を髣髴とさせる背筋も凍る絶筆が残されている。

　以上、百人一首に採録された八人は藤原家の勃興、成熟、爛熟そして衰退の歴史の節目に在位した天皇たちである。禍福は糾える縄の如しというが、皇室と藤原氏が絡み合い互いの興亡を続けてきた関係も後鳥羽・順徳の時代で武士社会へと時代は移り、王朝文化の終焉と平仄を合わせるかのように小倉百人一首も筆を止めている。たった百首の和歌により定家は壮大な叙事詩を詠ったのである。紙幅が尽きたのでここで仕舞いとするが、歌論の相違による後鳥羽院と定家の深刻な対立や順徳天皇から佐渡への随行を請われた息子・為家がすげなく断ったことなど二人の天皇に後ろめたさを感じたと見え、定家は亡くなる直前に家隆の後に二首を追加したのが真実のような気がする。

　最後になったが、定家の死から六百余年を経た1868（明治元）年、明治天皇は藤原雅経を家祖とする飛鳥井家の邸宅跡に白峯神宮を創建した。祭神は崇徳院と淡路廃帝である。「雅経に及ぶ」と語った定家もまさかそんな話になるとは厭離庵の墓の下で苦笑い、いや、定家のことだからそんなこと当然見越して言ったのさと嘯いているのかもしれない。

6

7

8

1 桂川にかかる渡月橋越しに見る小倉山
2 小倉山山すそに建つ二尊院
3 定家が百人一首を編纂した時雨亭のあったと伝わる常寂光寺・仁王門
4 源融・藤原道長の別荘であった王朝文化絶頂期の宇治平等院
5 式子内親王の墓　鎌倉時代の石仏と五輪塔
6 歌合せが催された京都御所　承明門から紫宸殿
7 定家の墓のある嵯峨野厭離庵の紅葉が盛り
8 順徳天皇を祀る佐渡島の真野宮

野田博明（のだ・ひろあき）

昭和26年生まれ。東大卒。日本興業銀行広報部長などを経て、現在、一般社団法人全日本社寺観光連盟理事。平成27年文化庁・観光庁共管の「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」、平成29年文化庁の「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」の委員。

嵯峨野の宝筐院にて

社寺を基盤に地方創生と観光開発を促進する検討会

「社寺観光研究会」発足

研究会の設立の背景

社寺を基盤として地域の多様な魅力を引き出し、新たな観光資源を創出・促進することを目的に発足した「社寺観光研究会」。昨年12月には50社を超える企業・団体が参加する説明会が開催された。

同研究会は全日本社寺観光連盟が主宰。説明会冒頭では、元観光部長（現在の観光庁長官）で現在は流通経済大学教授を務める全日本社寺観光連盟の藤野公孝理事長が発足の背景や結成意義について説明した。また、オブザーバーとして参加した観光庁・文化庁からも挨拶の中で「社寺の魅力の利活用」に対する大きな期待が寄せられ、研究会に対する関心の高さが窺えた。

社寺観光研究会の構成と目指すテーマとは何か

研究会のテーマは大きく二つある。

まず、すでにある文化財や景観、食べ物や名産品に加えて、新たな食材や商品、ガイドなどの人材、商店街や工房といった場所、学習体験、これらをコンテンツとして育て、新たな地域資源として加えていくこと。

二つ目は、社寺をプラットフォームとして観光開発を行うこと。

分科会にて個別テーマに関する調査・検討・企画立案を行い、委員会がその進捗管理、及び成果を協議・検証する。さらに評議会が委員会の協議事項を監修し、助言などを行う。

実務組織として会を動かす分科会で検討立案されるテーマは三つに分けられる。

①社寺観光の開発と普及促進
②社寺の保全に寄与する資産活用
③インバウンド対策

各テーマに沿って多彩な会員が集まり議論が進められる。

国を挙げて取り組む観光と地域活性に一役

新たに発足した社寺観光研究会は、政府が積極的に進めている観光立国の実現に向け、宗教界、政財界・学界が一丸となって社寺観光の推進に取り組んでいくという。議論が進められると、社寺観光に関わる優れた企画が生み出されることが大いに予想される。本誌でもその動向を引き続き報告する。

<社寺観光研究会　評議員名簿>

【議　　長】 **乾 敏一**
全国商工会連合会 専務理事

【評議委員】 **落合 偉洲**
公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟 理事長／久能山東照宮 宮司

作古 貞義
流通科学大学 名誉教授／観光産業研究センター長／シニアマイスターネットワーク 理事長

東海林 良昌
全日本仏教青年会 第20期 理事長／全日本仏教青年会 国際委員長／浄土宗雲上寺 副住職

デービット・アトキンソン
日本政府観光局（JNTO）特別顧問／小西美術工藝社 代表取締役社長

原 忠之
ユネスコ（UNESCO）文化サテライト勘定に関する技術諮問委員／セントラルフロリダ大学 ローゼン・ホスピタリティ経営学部 准教授

南坊城 光興
神道青年全国協議会 平成25・26年度会長／道明寺天満宮 宮司

■「社寺観光研究会」に関する
お問い合わせ先

一般社団法人 全日本社寺観光連盟
〒107-0052 東京都港区赤坂2-8-16
赤坂光和ビル2階
TEL：03-6416-0166
e-mail：info@jtast.jp
連盟ホームページ http://jtast.jp/

寺社のみなさまのご要望にお応えして広報活動をお手伝いします

プレスリリース（広報用資料）を受け付けしています！

- 特別拝観や催し事（イベント含む）の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴寺社の情報を当協会までお送りください。

http://wa-qoo.com

http://jisya-now.com/

ウエブ10万PV※
Facebook5万いいね!※
雑誌発行部数
3万部で発信!

※グループ合計

情報誌・ウエブ版「寺社Now」、宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、関連ウエブメディア に記事を無償で掲載いたします！

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください

※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。

郵便・宅配便で送付
一般社団法人　全国寺社観光協会　本部事務局
〒530-0044　大阪市北区東天満1-11-13　9F　TEL:06-6360-9838

e-mail で送信
info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

次号は
５月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 関西ぱど

発行所
一般社団法人 全国寺社観光協会
（事務局）
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満１丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 9F
Tel：06-6360-9838　Fax：06-6360-9848

寺社 Now
第18号　平成30年3月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複写（コピー）したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

バックナンバーのご案内

寺社の“いま”を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。

vol.14

◆特別対談企画
公益財団法人徳川記念財団理事
徳川家広
和宗総本山四天王寺執事　山岡武明
和宗総本山四天王寺 総務部参詣課信徒係主任　瀧藤康教
◆編集企画
高齢化社会に向けた社寺のバリアフリーの取り組み

vol.15

◆巻頭特集
真言宗御室派 大本山大聖院
座主　吉田正裕

◆クローズアップ
真宗大谷派 難波別院（南御堂）
輪番　宮浦一郎

vol.16

◆巻頭インタビュー
神道青年全国協議会 会長
富岡八幡宮 禰宜　佐野巌

◆クローズアップ
全国商工会連合会 専務理事
乾敏一

vol.17

◆巻頭インタビュー
全日本仏教青年会第21代理事長
倉島隆行

◆クローズアップ
仏教伝道協会 会長
木村清孝

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。
jisya-now.com または 寺社NOW 検索

本誌の記事に関するお問合せは右記にお寄せください。

一般社団法人　全国寺社観光協会　本部事務局
〒530-0044　大阪市北区東天満 1-11-13 9F
TEL：06-6360-9838　FAX：06-6360-9848　e-mail：info@jisya-kk.jp

キリトリ線

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、(　　)内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスにてお送り願います。

Q1. 所属

□寺院　□神社

Q2. 今号で面白かった記事はどれですか(複数回答可)　※丸数字に○を記入

① 巻頭インタビュー：文化財を通じて家康公の業績を伝え「平和の神」としてのご神徳を広めていきたい　久能山東照宮 宮司　落合 偉洲　② [特集1] VRを活用した寺社の新たな魅力発見と広報活動／天台宗総本山 比叡山延暦寺／日光東照宮・凸版印刷／曹洞宗赤城山 西福寺　③ [特集2] 全国各地の宿泊できる寺院を、パソコンやスマホで検索&宿泊予約できるサービス「テラハク」　④ From the Past to the Future：日本麻振興会『全国の神社に感謝の心で国産大麻(精麻)の注連縄や鈴の緒を奉納』／株式会社便利堂 写真部　岩村 孝『国宝を写し遺す、100年先まで繋がる仕事』　⑤ うちのお宝：大乗寺　円山応挙の襖絵／金刀比羅神社　難船彫刻絵馬　⑥ [特別寄稿] 野田博明「風まかせ」18：百人一首は暗号の万華鏡　⑦「社寺観光研究会」発足

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

□観光　□外国人対応　□宿坊新規開設・運営　□寺社イベント　□広報　□地域振興　□結婚式　□後継者育成　□土地活用
□その他（ご記入ください:　）

Q4. 今号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

（広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名：　）

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可)　※丸数字に○を記入

①ホームページ　②SNS運用代行　③アプリ開発　④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
⑤フリーWiFi　⑥自販機設置　⑦喫煙所設置　⑧清掃　⑨老朽化・耐震対策　⑩警備　⑪保険　⑫介護施設
⑬託児所　⑭土地活用　⑮資産運用　⑯税金対策
⑰その他（ご記入ください:　）

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

（ご記入ください：　）

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの無料送付の継続をご希望の場合は、
下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

□バックナンバー希望　ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可　□無料送付の継続希望
(Vol.　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　13　14　15　16　17)

寺社名		氏名	
ご住所	〒		
お電話番号			

< FAX >06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。

JTB

感動のそばに、いつも。

人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。

寺社Now Vol.18

寺社Now
【監修】一般社団法人 全日本社寺観光連盟 【発行】一般社団法人 全国寺社観光協会 （事務局）〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号 AXIS南森町ビル9F Tel: 06-6360-9838 Fax: 06-6360-9848

挑戦の
数だけ、
保険が
ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動

JAPAN
TOKIO MARINE NICHIDO
JOCゴールドパートナー（損害保険）